

全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議

第六回本会議

令和6年12月11日（水）

（議事次第）

議題

1. 学園祭総括報告書の承認について
2. 国際特別委員会設置期間についての要請
3. 情報処理推進特別委員会の設置期間の延長について

タイムテーブル

当日の時刻	予定した日程
18:30	開会
18:30-18:48	出欠確認・資料確認
18:48-19:24	議題 1
19:24-19:45	議題 2
19:45-20:00	議題 2 の採決
20:00-20:07	議題 1
20:07-20:15	議題 1 の採決
20:15-20:25	議題 3
20:25-20:33	議題 3 の採決
20:35	散会

出席者

学類等代表者 46 名 うち遅刻者 3 名 詳細省略

資料一覧

議題1 「学園祭総括報告書の承認について」

- ・ 議案書 「令和6年度筑波大学学園祭総括報告書の承認について」
..... P24009-00
- ・ 資料 01 「第50回雙峰祭総括報告書」
..... P24009-01
- ・ 資料 02 「目的の評価」
..... P24009-02
- ・ 資料 03 「目的の評価補足資料」
..... P24009-03
- ・ 資料 04 「第50回雙峰祭参加者アンケート」
..... P24009-04
- ・ 資料 05 「第50回雙峰祭総括報告(修正前)」
..... P24009-05
- ・ 資料 06 「運営要領(追加提出分)」
..... P24009-06

議題2 「国際特別委員会設置期間についての要請」

- ・ 議案書 「国際特別委員会設置期間についての要請」
..... P24010-00

議題3 「情報処理推進特別委員会の設置期間の延長について」

- ・ 議案書 「情報処理推進特別委員会の設置期間の延長について」
..... P24011-00
- ・ 資料 01 「情報処理推進特別委員会設立後の活動に関して」
..... P24011-01

以下、議事録

開会

○近藤 拓未（議長）

これより、令和6年度第六回本会議を開会する。

出席確認・資料確認

○近藤 拓未（議長）

出席者を確認する。慣例に基づき、読み上げられた学類に在籍する代表者の挙手をもって出席とする。
円滑な議事進行のため、参加者においては、適宜資料を確認されたい。

出席確認の詳細は省略

議題

○近藤 拓未（議長）

議事次第に則り、議題1「学園祭総括報告書の承認について」にうつる。学内行事委員会に議題の説明をお願いしたい。

○國崎 沙和子（学内行事委員会委員長）

議案1の資料00「令和6年度筑波大学学園祭総括報告書の承認について」の議案書をご覧ください。こちらは令和6年度学園祭の実施報告に関して、第3項第2号に基づき、今回審議対象となるのは資料01～04の4つの資料であり、資料05「第50回雙峰祭総括報告書_修正前」、資料06「運営要領（追加提出分）」は参考資料で審議対象ではない。

本会議前に資料05を資料として意聴会を開催した。そちらで受け付けた質疑を学園祭実行委員会の方から回答していただいたのち、質疑応答の時間を設け、最後に採決を行う。

○永田 大智（学園祭実行委員会 物品・総括担当副委員長）

「運営要領に記載があり、今回の報告書に記載のないものはどうなっているのか。」という質問を受けた。

実計の運営要領に記載があり、その通りに実行したものについては昨年と同様に報告書に記載をしていない。

○國崎 沙和子（学内行事委員会委員長）

続いて広報宣伝局に来ている質問について回答してもらう。

○小谷 裕太（学園祭実行委員会 広報宣伝局長）

パンフレットについて3点質問を受けている。

「6. 雙峰祭公式パンフレットの制作・管理（2）配布・販売」について。制作部数について言及がない

が、制作部数は実行計画書の運営要領に記載されている 12,000 部で間違いないか。また、3,812 部の販売数に無料配布分の 1,000 部はカウントされていないか。」

制作物数について、こちら間違いない。制作部数は 12,000 部である。3,812 部という数字は「販売」数であるため、無料配付の 1,000 部は除外されている。

「パンフレットは 12,000 部制作され、11,000 部が一般販売のために用意されたと記憶しているが、実際販売されたのは 3,812 部であり、売れ行きが芳しくなかったという印象を受ける。販売数が少なくなった原因について分析は行われているようだが、個人的には、パンフレット販売の情報が十分に周知されていなかったと感じる。パンフレット販売情報の周知のために行なった活動も併せてご教示いただきたい。」

6 月の意見聴取会の際に「パンフレットは毎年無料配布で不足するため、今年はそれを防止するために販売し切れない数を用意する。」と発言したことに鑑み、11,000 部を用意した。来年以降については今年の 3,812 部という数を受けて制作する部数を絞っていききたい。

パンフレット販売情報の周知については、案内所で放送を行っていたがそれ以外に宣伝は行っていないので、宣伝が不足していることは認識している。来年については SNS での周知、他にもできることがあればやっていきたい。来年の代に委ねる。

「雙峰祭リーフレットは最終的に何枚配られたのか。」

5,000 部を配布した。1 日目のみ配布し、残りの 800 部は廃棄した。

「オフィシャルポスターの配布について、来年度は 9 月から順次配布することを目指すとあるが、これを実現する目処は立っているのか。可能なら今年度の制作の遅延が起きた理由と併せてご教示いただきたい。」

具体的な遅延の原因はないが、強いて挙げるとすれば「早めに制作したい」ということだけが局内で共有され、日程の認識が強く意識されなかったことだろう。また、ポスターよりも締切が早いグッズやパンフレットに労力を費やさざるを得なかったことも挙げられる。来年は 2 年生が 20 名と増え、十分な労力が確保できる予定なので、9 月から配布できるようになるだろう。

○國崎 沙和子（学内行事委員会委員長）

続いて推進局に来ている質問について回答してもらう。

○渡邊 陽之（学園祭実行委員会 推進局長）

「1.保健衛生の管理について。『本祭 1 日目において、保健所の指導があったにも準備日にかかわらず生焼けと思われる食品を提供したこと、提供するプラスチック容器が熱で溶けているとの報告が上がったことから、食品衛生・食中毒の観点から該当企画を企画中止とした。』とあるが、文意が通じていない。

『本祭 1 日目において、準備日にかかわらず』とは何か。それから中止となった該当企画は一つの団体を指しますか。それとも複数でしょうか。」という質問があった。

文意や誤字訂正に関しては本会議にて提出したものは修正したので確認をお願いする。

中止となった団体であるが、両方で 1 つの団体である。

○齋藤 瑞生（学園祭実行委員会 総合計画局長）

「1.会場配置計画(2) 学園祭の実施場所及び実施日程の決定・管理について。『エリア支援室からの要望で直前に企画の場所の変更を行った。』とあるが、具体的に、どの支援室がどのような経緯でいつ頃企画の場所を変更するよう要請したのか明記すべきである。」

局の判断として、具体的な名前を出す必要がないと判断した。記載することによって得られることがないと判断したためである。

また、石の広場の自転車の撤去について、事前に3件の質問をいただいた。

石の広場西側の転車撤去については学園祭実行委員会に直接意見があったわけではなく、SNS で盛り上がったただけなのであくまで参考として受け取る。

正式に意見をいただいていないので事実関係の調査を行っておらず、報告書に再発防止策として記載するにはあまりにも不確実性が高いため記載は行わない。周知の方法・内容について、周知は必要最低限学生が確認できる TWINS 掲示板では行っている。

石の広場周辺は撤去日が違うこともあり、周知が足りなかった事実はある。

全エリアで自転車撤去することを周知する必要があるだろう。

周知する方法はこれ以上増やすことができないので、局として、撤去した自転車が正しく返却されることを期待しつつ引き続き撤去を行う。

○永田 大智(学園祭実行委員会 物品・総括担当副委員長)

本部企画局の者が現在応答することができないため代理として対応する。

「(4) 雙峰祭グランプリについて実計の運営要領には「②概要」に「また、結果発表後に Instagram 及び X にて上位 10 企画とその大まかな投票内訳を公表する」と記載があるが現時点で Instagram 及び X でこちらに該当するような投稿は確認できなかった。この点に関して総括で言及がなかった。実計と実際に齟齬が生じた箇所については理由も含めてしっかりと総括に記載すべきである。」

学生賞が学生からの投票数 No.1 であることや、上位 10 企画の定義が難しかったことに加えて、投票フォームのつくりの問題があり、3 企画以上に投票した無効票を加味してそれら受賞団体の投票数内訳を算出したため、具体的な数字の公表は避けた。

○國崎 沙和子(学内行事委員会委員長)

これで事前に募った質疑に対する回答は以上だ。

19 時 11 分まで確認の時間を取る。

○近藤 拓未(議長)

議題説明が終わったとみなし質疑応答に入る。

質問がある人は挙手をお願いします。

○相川 大惺(医学類)

無効票を計算に入れて順位を出したと言っていたが、その影響で順位が変わるという問題はないのか。

○上野 響子（学園祭実行委員会本部企画局）

集計しているのは企画局なので具体的な数値はわからないが、無効票によって順位が前後したという事実はない。

○森 望（社会学類）

総合計画局の自転車撤去についての告知について質問する。TWINS、manaba での告知のほか、看板での告知を行ったと思うが、石の広場では早く撤去が行われることが正しく記載されていなかった。私も実際に看板の写真を見て実計との相違を感じているが、その点について総合計画局は認識しているか。

○齋藤 瑞生（学園祭実行委員会 総合計画局長）

石の広場では撤去日時が異なる旨の告知看板を設置していた。

撤去前後で看板の位置を移動させた。SNS で拡散があった後に見た場合は範囲外に移動したため、確認ができなかったかと思われる。

看板の記載内容については問題がなかったが、個数や場所については問題があった。来年以降改善する。

○森 望（社会学類）

もう 1 点質問する。10 行目に、支援室からの要望で企画実施場所を動かしたことについて「記載により得られる事がないと判断したため記載しない」と回答があったが、この判断について詳しくお聞きしたい。

○齋藤 瑞生（学園祭実行委員会総合計画局長）

支援室からの要望による実施場所の変更は、具体的な支援室名を記載する十分な理由が存在しない。このケースについては学実委の不手際ではなく、教室の貸し借りを仲介した支援室の伝達ミスであるが、我々に非はないと考えており、また当該支援室を名指しする必要もないので、記載していない。

また、場所の変更についても関連する企画がいくつかあったが連絡して円滑に行うことができたため、報告としては変更があったという事実のみ記載した。

○森 望（社会学類）

トラブルがなかったということによかったと思う。

○綱木 映法（社会学類）

意聴会の質問に対する回答があったが、撤去された自転車について持ち主に現状は正しく返却されないことがあるのか。またどのような手続きをおこなっているのか。

どのような改善が必要なのか聞きたい。

○齋藤 瑞生（学園祭実行委員会 総合計画局長）

まず 1 つ目の持ち主への返還について回答する。今年は学園祭終了後 2 週間経った段階で学園祭のた

めに移動した自転車のうち、回収されていないものはすべて学生生活課に届けた。学生生活課から ID シールをもとに持ち主に連絡し、返還するような手続きとなる。現段階でどれくらいの自転車が持ち主に返却されたかは分からない。

放置自転車について、ずっと放置されるのか、学園祭のために放置されたのかわからないことがある。連絡があった際に持ち主に返還されることを期待している。

返却の手続きについては、撤去する旨を書いた看板に移動元と移動先が記載されているので、それを手がかりに移動先に取りに行けば、移動した自転車がそこにあるという状態だ。また、看板には学園祭実行委員会のメールアドレスと部屋番号も記載されているため、こちらに連絡をもらえれば自転車のある場所を案内することもできる。

撤去された自転車を学生生活課に渡すことは来年も行う。それ以外には看板の設置期間を長くすることで、広く周知に努めることや、移動してからしばらく経っても自転車が合った場所に行ったら移動先が分かるようにしたい。

○近藤 拓未（議長）

24 分までに質問がなければ投票に移る。

○岩渕 泰知（社会工学類）

グランプリについて、合計 1474 票あったとあるが、フォームでの送信数が 1474 票ということで間違いないか？

また、これは無効票を入れた票数か省いた票数か。

○上野 響子（学園祭実行委員会 本部企画局）

省いた数のはずである。無効票が大量に出なかったこともあり、記載されている数値は省いた数とした。

○岩渕 泰知（社会工学類）

さきほどの答弁について確認させていただきたい。

無効票があったところで上位の順位差は変わらないということは正しいか。

○上野 響子（学園祭実行委員会 本部企画局）

間違いない。順位の変動はない。

○岩渕 泰知（社会工学類）

無効票が発生したため内訳を公表しないとあるが、そんなに変化が生じないなら理由にならないのではないか。

○上野 響子（学園祭実行委員会 本部企画局）

おおまかな投票数というのがどこまでを指すのかにもよるが、SNS での投稿では実際 1 位の投稿には

「2 位との差をつけて（優勝した）」という文言をつけて投稿していた。担当者に一度確認するため持ち帰りたい。

○近藤 拓未（議長）

持ち帰りて本日中に回答が得られないと本日採決を行えなくなってしまう。採決までに回答が得られなかった場合には、今の回答を十分であると考えて本日採決を行うか、回答が出ていない状態であると考えて採決を延期するかとの二択となる。

○永田 大智（学園祭実行委員会 物品・総括担当副委員長）

回答に関してはこの場でできるが、少々お時間をいただく形になる。それでもよいのか。

○近藤 拓未（議長）

では、回答を待ち、この議題については一時的に保留とする。

31 分までに質問がなければ質疑応答を締め切る。

一旦質疑応答をとめて、別の議題の審議にうつりたい。

○近藤 拓未（議長）

続いて議題 2「国際特別委員会設置期間についての要請」にうつる。国際特別委員会願うする。

○吉川 柊（国際特別委員会）

今回国際特別委員会設置期間について要請する。2021 年度に 3 年としていた設置期間を無期限とした。当初 3 年間としていたのは、国際化を進められるかどうかや、継続的に活動できるかを確認するためだった。今回、設置期間を無期限としたのは、人員が確保でき、継続的に活動できるという見込みができたからだ。

さらに大学全体での国際化の需要が高まっている。

以上を踏まえ、国際特別委員会の設置期間を無期限にすることを要請する。

○近藤 拓未（議長）

先ほどの岩渕さんの質問に回答が得られそうとのことで、議題 2 の表決が終わり次第議案 1 に移る。

議題説明が終わったとみなし質疑応答に入る。質問がある人は挙手をお願いする。

○沼田 航（工学システム学類）

設置期間が無期限ということだが、常任ではなく特別委員会での設置とする理由はあるか。

○吉川 柊（国際特別委員会）

将来的に、国際特別委員会がなくても、常任委員会のなかで対応できるようになれば国際特別委員会是不必要になるので、それを期待していつでもやめられるように常任委員会という形をとっていない。

○沼田 航（工学システム学類）

重ねての質問になるが、そうであれば無期限での設置とする理由は何か。

○吉川 椋（国際特別委員会）

留学生の諸問題に対処することや、全大会の国際化などについてはいつまでにできるという具体的な目途が立てられない。そのためこのような長期的な目標を達成するには無期限が妥当だ。

また特別委員会であれば留学生を委員長にすることも可能である。そういう意味でも特別委員会としている。

設置期間を無期限として常任委員会ではなく特別委員会のままにする理由は、将来的に国際特別委員会がなくても常任委員会の中で留学生等に関する問題が扱えるようになれば、国際特別委員会は必要なくなると想定しているからである。以上で回答となっているか。

○綱木 映法（社会学類）

要請を見る限り、今後の活動予定は留学生の諸問題に対処するものであると認識している。筑波大学の国際化については、新たな構成員の獲得になるかもしれないが、今までの活動実績や今後考えていることで何かあれば教えてほしい。

○吉川 椋（国際特別委員会）

国際特別委員会に複数の留学生が所属している。

今後の予定にある CiC パートナー校など全大会自体の国際化につながると考えている。

○カーニー 晴希（教育環境委員会 教育学類）

今、国際特別委員会が担当している Tsuku・Koi 等のイベントは国際特別委員会がやがて無くなった際には、他の実行委員会が開催し、学内行事委員会が監督するという仕組みになるということであっているか。

○吉川 椋（国際特別委員会）

今後、国際特別委員会がなくなった後のイベントに関する采配に関しては、まだ特に考えている点はない。

○近藤 拓未（議長）

45 分になったので表決に移る。

表決の手続きについては省略

○近藤 拓未（議長）

採決の結果、賛成 41、保留 1、反対 1、棄権 3。本議題は承認された。

○近藤 拓未（議長）

ここで先ほどの説明の通り、中断していた議題へと戻る。先ほど、他に質問がないとのことであったため、それを前提とし、岩渕さんの質問とそれに対する回答をもって質疑応答を終了とあい、表決とする。岩渕さんは再度質問の内容から説明してほしい。

○岩渕 泰知（社会工学類）

保留前に行った指摘は、総括によると、SNS で上位 10 企画を公表しなかったことについて、フォームのミスで正確な得票数が確認できなかったために公表していないということだったが、これは上位 10 企画を記載しない理由にはならないのではないかとこのものである。

○上野 響子（学園祭実行委員会 本部企画局）

結論から申し上げますと、上位 10 企画は今月中に SNS で公開する。公開ができなかった理由について再度企画責任者に確認したところ、1 位の団体については無効票を加味するか否かに関わらず、明らかな違いがあったため得票数まで出していなかったこと、受賞団体側も分かっていないところがあったことが挙げられた。つまり、現時点では受賞団体でも具体的な得票数が分かっていない状況である。

そもそも、投票の締め切り時間から票数の確認まで 30 分しかなく、投票フォームの不手際により全てを確認することは不可能だった。SNS にて公開しなかった理由は無効票を含めても除いても順位は変動しなかったことである。したがって、特段の理由がないため、今年中には SNS で公開することになるだろう。

1 位については無効票の確認も再度必要になるので、時間が必要になる。公表する得票数に関しては総得票数と、無効票を含めた票数を公開する予定だ。実行計画書と変わってしまった点は申し訳ない。

投票締め切り時間とフォーム設定の変更については来年以降行うつもりなので、本件については容赦願いたい。

○岩渕 泰知（社会工学類）

色々大変なことがあると思うが、頑張ってもらいたい。

○近藤 拓未（議長）

質問は以上とみなし表決へとうつりたい。

投票の流れについては省略

○近藤 拓未（議長）

開票する。出席議員 46 名、賛成 41 名、保留 2 名、棄権 3 名、よって本案は原案通り可決された。

○澁谷 耕大（情報処理推進特別委員会委員長）

情報処理推進特別委員会は 2023 年 1 月の本会議で設置を認められた特別委員会で、本学の情報処理の推進を行っている。設置期間が今年度末の 2025 年 3 月 31 日と定められているが、資料に記載の通り、

2025 年度以降も設置の継続が必要と判断した。

他方、専門知識・専門技能を有する人材の確保という観点から持続性が認められない。

以上のことから設置期間の延長を要請する。

具体的な活動内容等については設立後の活動に関しての書類を確認願いたい。

○近藤 拓未（議長）

議題説明が終わったとみなし質疑応答に入る。質問がある人は挙手をお願いします。

○近藤 拓未（議長）

質疑の時間 23 分までとする。それまでに質問等なければ決議に移る。

○相川 大惺（医学類）

延長期間が 2 年であることに何か意図はあるか。

○澁谷 耕大（情報処理推進特別委員会委員長）

これについては情報処理推進特別委員会が設置された当時の活動想定期間が 2 年だったため、それと同じ期間を設定した。

○綱木 映法（社会学類）

専門知識や専門技能を有する人材が必要であり、その観点から持続性が認められないとの話があった。情報処理に関する諸問題は今後も起きうるが、必ず専門知識や専門技能を有する人材が全代会に入ってくれるとは限らない。

IPC があるかないかを問わず、情報処理の諸問題に対応できるようにするために考えていることや今後 2 年間の活動で成したいことはあるか。

○澁谷 耕大（情報処理推進特別委員会委員長）

現在リクルートという点では各学類新歓における全代会に関する説明において情報学群の皆様には別スライドにて情報処理推進特別委員会へのリクルートを強化している。また、情報系技術者コミュニティ UNTIL の運営を行っており、様々な人材が入ってくることを期待している。可能な限り継続的な人材確保をしているが、各学類等の代表から選ぶ、もしくは実委から何人選ぶ等、詳細が定まっていないことが現状だ。

継続的な確保、情報処理ができる専門技能をもった人材の継続的な確保に関しては問題を抱えている。

これについての解決策は、先ほど示した以上のことを実際に行えているわけではない。この点をご承知おきの上判断をお願いしたい。

○近藤 拓未（議長）

時間となったので質問は以上とする。表決に移る。

表決の手続きについては省略

○近藤 拓未（議長）

表決の結果、賛成 42、棄権 4。本議題は承認された

○近藤 拓未（議長）

本日の議題は以上とする。報告がある委員会は報告願いたい。

○江添 由（教育環境委員会）

2024 春学期 BRIDGE(学士基盤科目,自由科目,体育)の回答数が足りないため、学類等代表の皆さんのお力を貸していただきたい。まだ回答されていない方に協力をお願いしたい。

○榎本 陽子（広報委員会）

広報委員会の報告は以下の 3 点になる。

1. Campus232 号を配布した。ぜひ見ていただき、広報委員会に興味をもっていただきたい。
2. 今週 9 日の委員会が年内最後の委員会となった。年内の委員会は書面開催が主になる。
3. Campus233 号の最終修正、Campus234 号の制作がはじまっている。

○近藤 拓未（議長）

これにて第六回本会議を散会とする。

散会

以上 総務委員会 作成